

第1回「なつかしい未来」商品アイデア・ワークショップ

【開催概要】

○日時：2012年2月13日（月）15時～18時

○場所：竹駒コミュニティセンター（岩手県陸前高田市竹駒町字館44）

○目的：

- ✓ “なつかしい未来”の商品・サービス開発を行いながら「なつかしい未来」のコンセプトを明らかにし、販売することで陸前高田市内外に陸前高田のもつ魅力を伝え、共感を得る。

（⇒消費者の次なるアクション・・・出資・参画・利用モデル・・・につなげる）

（⇒なつかしい未来創造株式会社のCIデザインにつなげる）

- ✓ ワークショップを通じてその豊かなプロセスの中で、どのようなまちにしたいかを考えるきっかけとする。
- ✓ 陸前高田の被災した方々の希望やモチベーションをつくっていく。
- ✓ 産業創造、雇用創造につなげていく。

○参加者：陸前高田の人々18名 陸前高田市外の人々12名 合計30名

男女比（3：2）、平均年齢36歳

■陸前高田の人々；なつかしい未来創造株式会社メンバー、林業者、製材業者、新聞記者、家具店社員、デザイン・印刷事業者、社会人大学観光部担当者、図書館事業を行っている方、シルバーアクセサリーデザイナー

■陸前高田市外の人々；明治学院大学学生・ボランティアコーディネーター、SBNメンバー（池内タオル池内氏、電通平川氏、町野、ネイチャースケープ中川氏 スカイプ参加）

○ファシリテーター：青木将幸氏

○ワークショップ設計：西村佳哲氏

○コーディネーター：服部直子、中野里美

役割：本ワークショップの企画・運営サポートおよびSBN関係者や地元事業者等の参加者との事前・事後連絡調整

【議事・実施内容レポート】

1. なつかしい未来 ってどんなイメージ？（一部抜粋）

- ✓ 伝統×バイオテクノロジー
- ✓ 今ここでしかできない挑戦！！
- ✓ 歴史や土着の風習、伝統を古びさせず新鮮に感じさせてくれる
- ✓ むかしながらの安心できる生活を今、これからの技術でやさしく実現すること
- ✓ 人 変えなければならないコト、変えてはならないコト
- ✓ 失われつつある人間関係をとりもどしつつ持続可能な社会
- ✓ そこに住む人々が良くも悪くもコミュニケーションがしっかりとれている結のある生活
- ✓ 三丁目の夕日×人と人とのつながり
- ✓ 利便性のある昭和三十年代
- ✓ 誰が見ても田舎 でも 近代的・先進的
- ✓ 自給自足 近代的建物ないけど洗練されたまち 子どもも旬をしっかりとっている
- ✓ 地域のみんなで協力して新しい何かを築く
- ✓ 老人たちの築き上げた伝統文化の外貨獲得商品化
- ✓ 働ける人が何歳でも自由に働けるコミュニティー
- ✓ 過去と現在の共有

2. 商品を考えてみよう グループワーク

主には、地元材（気仙杉）を活用し伝統技術（気仙大工）を活かした宿泊施設などを建設する事業、陸前高田の食を発掘し全国から食べに来てもらうツアー事業、民泊事業、その他日常に必要なものとして図書館やおいしいコーヒーがのめるほっとする場所をつくりたい、等。（以下、一部抜粋）

- ✓ 伊勢のおかげ横丁のような今泉商店街。＝気仙杉を使った商店街。吉田家という気仙大工の家を復元する計画と合わせて。
- ✓ 地元のおいしい野菜を地元のエネルギー（木炭など）で焼いて出すお店。
- ✓ 本がたくさんあってほっとする場所。そしておいしいコーヒーも飲める場所がほしい。カルチャーセンターとか、いろんなことを教えてもらえる場所。高田の文化など学べる場。行ってぼけーっとして帰ってくるだけでも良い。
- ✓ ホームステイをして家庭の中に入り込む。高田ならではの食や人の温かさにお客さんとして、というよりは家族の一員として加わって体験する。

- ✓ 物々交換の習慣がある地域。都市の人は何を持ってきても良く、陸前高田の人と交換する。都市の人がもってくるものは、一週間そこで働くでも良いし、こんなのがおもしろいという情報でも良い。
- ✓ 防災を学べるまちづくり。高田に宿がないのでテントを設置してバックパッカーを呼ぶ。通称「道の宿」。何もできないが、ネットだけはできる。そこにバックパッカーが集まり学んだことが広がるしくみ。料金もその方たちにお任せ制度。
- ✓ 旬の食べ物祭り in 陸前高田 簡単に外に売らず、一番おいしいものはここに来させて食べてもらう。陸前高田に来ないと食べられない。
- ✓ 小さなコミュニティの中で体を使って遊ぶ、脳を活性化させる教育プログラム。安全性も保たれてクオリティも高いものを。
- ✓ 大黒柱募集 後継ぎ問題もあるので、永住を前提に経営者になりたいひと募集
- ✓ 生物活用ビジネス。多収穫米からエタノールを抽出することもあわせて考えたいが、担い手が高齢化する第一次産業をなんとかするために、取り組みたい。
- ✓ 生協のよくなつかしいけど新しい地域商社モデルにして展開できないか。市民みんなで出資し、参画し利用するモデル。例えば市民が株主になって全国の10万人の会員と流通させていく。

3. しぼりこんでグループ分け

- ✓ 気仙杉をつかった気仙大工による建物を建てる企画
- ✓ 図書館を軸にしたコミュニティスペース
- ✓ 生活者が参加する、新しい生協モデル
- ✓ 高田の良さを発信するツーリズム企画

次回、2月29日は「なつかしい未来」の掘り下げを行い、出てきたアイデアをブラッシュアップする。

これ以降、具体的に打合せを重ねてかたちにしていく。
また、定期的にアイデアワークショップを開催する予定。



